

**令和4年度**

**第15回新川和江賞**

**～未来をひらく詩のコンクール～**

**表 彰 式**

**日 時:令和5年2月12日(日)午後2時**  
**場 所:結城市民情報センター 多目的ホール**  
**主 催:結城市・結城市教育委員会**  
**(公財)結城市文化・スポーツ振興事業団**

## ごあいさつ

結城市は、歴史と文化のまちです。江戸時代の俳人・与謝蕪村は、当地の俳人・砂岡雁宕のもとに身を寄せ、交遊し、結城を詠んだ俳句などを多数残しました。また結城朝光以来、結城家で代々保護育成された紬産業は、平成22年にユネスコ無形文化遺産に登録されました。

この歴史と文化を継承していくのは、未来を担う子どもたちです。そうした結城の子どもたちの才能を発掘し、伸ばしていきたいという、名誉市民であり、ゆうき図書館の名誉館長でもある詩人・新川和江氏の思いが、結城市民情報センター・ゆうき図書館が開館5周年を迎えた平成20年度に、「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」という形で具現化されました。

このコンクールは、今年で第15回を迎えます。これまでに28,658点のご応募をいただき、毎年素晴らしい作品が数多く生まれてまいりました。詩の創作活動を通じて、本市の文芸振興を図るとともに、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の育成に貢献してまいりました。また、新たな才能を発掘することを目的とするという思いは、詩を愛する関係各位のご尽力により脈々と受け継がれております。

本年度も、2,183点という多くの作品をご応募いただきました。感性豊かな秀作ぞろいで、受賞されました皆様に心よりお祝いを申し上げますとともに、ご応募いただいた皆様が、詩への興味を持ち続けていただくことを期待しております。

私は、子どもたちが秘めている可能性を開花させ、世界に羽ばたく人材になってほしい、そして、そのきっかけをつくってあげたいと考えております。子どもたちが、ここ結城でのびのびと育ち、大人になっても、結城で過ごした日々を誇りに思う。そうあってほしいと願っております。

結びに、皆様が詩の創作活動を通じて、個性豊かな創造力を育み、豊かな心で毎日を過ごされますことを願い、ごあいさつといたします。

令和5年2月12日

結城市長 小林 栄

## ごあいさつ

結城市の小学校・中学校・高等学校の児童、生徒の皆様。今年度も、「第15回 新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」に、たくさんの素晴らしい詩を応募してくださいましてありがとうございました。

応募作品は、2, 183篇もありました。そのすべてを、「センダンの木のつどい」の詩人関和代さんと山中和江さんが真剣に読んで下さいまして、541篇を選んで下さいました。どれも言葉が生き生きとして魅力的な作品ばかりで、選ぶのにつらい思いをいたしましたと言っておりました。本当にその通りだと思います。私も、繰り返し何度も読みまして、その中から新川和江賞、優秀賞、優良賞を選びました。受賞者の皆様、おめでとうございます。

応募して下さいましたすべての作品は、皆さんの心から生まれた小さな炎のようなもので、炎は大きく成長して、これからの生きる力になってくれるでしょう。

今年度は、ウクライナの悲惨な出来事をテーマに取り上げた詩が幾篇もありました。テレビを見て心を痛め、一刻も早く平和な世界が訪れるのを真剣に願っているのですね。詩は、このように現実には起きていないさまざまなできごとに鋭く目を向け、人々に強く訴えることが大事な役目のひとつです。

また、家族や自然、ペット、小動物、仕事、作物、学校、スポーツ、友だちなど、自分の身の回りの毎日のできごとに繊細な眼差しをそそいでいる作品もたくさんありました。それらの作品は、愛情や思いやり、やさしさ、悲しみ、苦しみ、驚きなど昔から変わらないが、一瞬一瞬つねに新しい人間の豊かな感情がテーマになっています。

私は、時々、新川和江さんの次のような素晴らしい詩節を思い出して、自分を力づけることがあります。

単調なくり返しの  
変哲もない歌であるのに  
はじめて聞くもののように夜更けに冴え返って  
わたしは 壁の中の声に耳を傾ける  
こおろぎは  
こおろぎの歌をうたっている

(「こおろぎは・・・」)

皆様、どうかこれからも自分が経験したものをのびのびと表現して、広く、広く世界を広げて行ってください。

最後になりましたが、児童、生徒を、詩の創作に熱心にお導き下さった先生方、保護者の皆様、この素晴らしい未来に向かう豊かな事業を推進されている市長はじめ関係者の皆様、誠に有り難うございました。

令和5年2月12日

選考委員長 たけし かすゆき  
武子 和幸

## 次 第

日時 令和5年2月12日(日)  
午後2時  
場所 結城市民情報センター  
3F多目的ホール

### ●表彰式

- 1 開式のことば
- 2 主催者あいさつ
- 3 来賓あいさつ
- 4 表彰
- 5 第15回受賞作品朗読
- 6 選考委員長による講評
- 7 閉式のことば

優秀賞  
新川和江賞

## ●受賞者氏名

### ☆新川和江賞（最優秀賞）

ぼくとウクライナの日 絹川小学校 4年 さかいり たくま  
坂入 巧真

### ☆優秀賞

なつのやさい 結城小学校 1年 やまざき こうた  
山崎 煌太

でんぐりがえし 上山川小学校 1年 はこもり ゆいと  
箱守 結仁

パパ 山川小学校 2年 いしかわ ゆあら  
石川 結蘭

心ぞうの音 城南小学校 3年 かしわせ ゆうご  
柏瀬 悠吾

イルカとクジラとぼく 江川南小学校 3年 かわつら いぶき  
川面 一颯

### あったかい手が教えてくれたこと

結城西小学校 3年 こしの けいご  
小篠 圭吾

ぼくの庭のお客さん 城西小学校 4年 くどう しんいちろう  
工藤 慎一朗

思い出のトラクター 結城小学校 5年 ふくしま はなえ  
福島 花瑛

手話っていいな 江川北小学校 5年 おいぬま ゆうは  
生沼 友羽

鳥の巣展に行つて 城西小学校 6年 しみず なほ  
清水 菜穂

ゴキブリ 結城南中学校 1年 いなば れお  
稲葉 怜央

あの空気 結城東中学校 1年 すぎやま ゆい  
杉山 優衣

夏 結城中学校 2年 たての あゆむ  
立野 歩武

私のことをずっと忘れないで 結城第二高等学校 1年 たかはし みう  
高橋 美羽

## ☆優良賞

### うみのうごき

絹川小学校 1年 いししま あきな  
石島 明奈

### お空のいろいろなかお

結城西小学校 2年 あだち あいり  
安達 葵梨

### しんかわかずえさん

江川北小学校 1年 おいぬま しょうえい  
生沼 笑英

### おじいちゃんの手

江川北小学校 3年 せきね ひろと  
関根 大翔

### おとうと

江川北小学校 1年 おかだ あや  
岡田 彩

### イモリ

山川小学校 3年 つかごし ひかる  
塚越 輝琉

### じいじとわたし

結城西小学校 1年 おおしま こなつ  
大島 幸夏

### お母さん

江川南小学校 4年 おおさと ゆりあ  
大里 結莉愛

### ふかふかおふとん

城西小学校 1年 いなば なみか  
稲葉 波華

### 私の好きな習い事

結城西小学校 4年 えのもと きよか  
榎本 粹花

### おみそしる

結城小学校 2年 わかばやし あいり  
若林 愛莉

### 時計

結城小学校 5年 あおしま ゆうか  
青島 優花

### なつやさい

上山川小学校 2年 いわた たいが  
岩田 大河

### ツバメ

絹川小学校 5年 のむら さよ  
野村 紗世

### 夏の空

上山川小学校 2年 おぬき るな  
小貫 琉南

### 最後の言葉

山川小学校 5年 うらた まな  
浦田 愛菜

## ☆優良賞

### おばあちゃんのごはん

結城西小学校 5年 さとう 瑠生

### 梅雨

結城南中学校 2年 しみず あおい 葵衣

### 最高の修学旅行

城南小学校 6年 いたばし ともき 板橋 朋生

### 冬の子犬

結城東中学校 2年 きくおか あゆむ 菊岡 歩

### あり

江川南小学校 6年 いしざき あつき 石崎 篤輝

### 秋

結城南中学校 3年 あくい はると 阿久井 陽翔

### カメラと写真

山川小学校 6年 わかみや かな 若宮 袈菜

### 君はいつも笑ってる

結城東中学校 3年 みやた ななみ 宮田 菜々美

### なりたい自分になるために

上山川小学校 6年 さとう あやと 佐藤 綾人

### どうして

結城第二高等学校 1年 せきぐち るな 関口 月隼

### 真夜中の合奏室

結城中学校 1年 やぐち ゆな 谷口 友菜

### 蛙

結城第二高等学校 2年 おおはた ももか 大畑 百々虹

### 心のどうくつ

結城東中学校 1年 みやた ゆい 宮田 結生

### 闇

結城中学校 2年 かつまさ あかり 勝政

ことばはいつ 詩となるのであろう  
猿に噛みくだかれた木の実は  
むろの中で年月を経て酒となるように  
夜ふけに草をしめらせたり露が  
あけがた葉末で玉となるように

新  
川  
和  
ニ2



## 新川和江賞

### ぼくとウクライナの一日

絹川小学校 四年 坂入 巧真

朝起きてごはんを食べている時  
ウクライナでは、じゅうの音が聞こえる  
顔をあらっている時  
戦車が街をはしっている  
学校に行って勉強をしている時  
へいしが街を歩いている  
友達とサッカーをしている時  
大人も子どももおおそれて泣いている  
お風呂ごはんを食べている時  
ときのへいから身をかくしている  
そうじをしている時  
街は、どんどんこわされている  
学校から帰る時  
国を守るためへいしが戦っている  
家で宿題をやっている時  
子どもも大人もひなんしている  
おやつを食べている時  
ばくげきの音がなっている  
テレビをみている時  
死者がどんどんふえている  
ゲームをしている時  
歌でみんなの心を明るくしている

お風呂にはいつている時  
ミサイルがぶつてくる  
夜ごはんを食べている時  
へいしが街をみはっている  
ねている時  
戦争は、ずーっとつづいてる  
早く戦争が終ってほしい  
ぼくの声がウクライナにとどいてほしい  
世界中にとどいてほしい  
ぼくは戦争が大きらいだ

### 短評 新川和江賞 「ぼくとウクライナの一日」

テレビは、ウクライナでミサイルが街をはかいし、赤ちゃんや子どもや大人たちがたくさん亡くなっている悲しいできごとをつたえています。坂入さんもそれを見て心をいためているんですね。今年度の詩のコンクールにも、何人かのお友だちがウクライナのことを書いていました。なかでも坂入さんの詩でとくに感心したところは、戦争のない私たちの平和な暮らしとウクライナのひさんな日々をならべて書いているところです。私達は、平和な毎日につきりなれて、あたりま

えになっていますが、こうしてならべて読みますと、強く想像力がはたらいて、平和の大切さ、いのちの大切さ、早くウクライナに平和がもどってほしいという願いで心はいっぱいになります。これが詩の力です。坂入さんは、この力で戦争が早く終わるよう世界にうたったえているんですね。

## 優秀賞

### なしのやわら

結城小学校 一年 山崎 煌太

なすはむらむらき しんしんのかわ  
なかはしんっほごごん  
ピーマンはみずの じいほじいほ  
ちんちんたねがはごごん  
やじもじいしはきいろ かわがようぶくだ  
しびしびがいらっほいなばごごん  
パイパイはあか ぽんぽんかわいら  
きごんのとまともおいらごごん  
きごんのはみずの トゲが すじいある  
シヤキシヤキと たべるといらごごん  
ゴーヤはおおきなトゲトゲ ばくだんみたい  
じがくじ およなのあじ  
なつのやわら いろがたぐわん まれいだね  
かたちもいろいろ おもじい  
いろんなたべかたがある  
やじもおいらごごん  
いらっほいらっほ

### 短評 「優秀賞」なしのやわら

たぐわんのやわらスーパーでみたのかな？なしのやわらごごんって  
も、いろごんあるだね。おもしろかった。じいほじいほと、じが  
あったり、よばごんへのちうなかわらじいほにいらたり。とても  
いらものをみて、こいねにいらてあして、かんしんしました。こ  
たみんは、まわりのものをちりちりぶかへ思ひのがだすまなだね。  
すほらごごんごごんね。ごごんのいろごんかたち、じいほごごん、  
じいほごごん、およにいらまむじ、まごごんかたごごんごごんね。

## 優秀賞

### でんぐりがえし

上山川小学校 一年 箱守 結仁

でんぐりがえしってたのしいね。  
いるかがでんぐりがえしをしたよ。  
せい、ころん。あれ、ふしぎ。  
かるいになっちゃった。

でんぐりがえしってあぶないね。  
にわがでんぐりがえしをしたよ。  
せい、ころん。うわあ、にげろ。  
わになっちゃった。

でんぐりがえしっておいしいね。  
みるくがでんぐりがえしをしたよ。  
せい、ころん。いただきます。  
くるみになっちゃった。

でんぐりがえしってむずかしい。  
しんぶんしがでんぐりがえしをしたよ。  
せい、ころん。あれ、ふしぎ。  
なんにもへんしんしない。

でんぐりがえしってわらっちゃう。  
ぼくもでんぐりがえしを試してみたよ。  
せい、ころん。あれ、えへへ。  
おへそがみえた。ぼくはぼくのまんまだね。

### 短評 優秀賞「でんぐりがえし」

「ころんか」がでんぐりがえしをしたら「かるい」ものになってしま  
った。「わ」「は」「お」「え」「う」「い」「わ」「な」「り」「み」「か」「た  
い」「る」「み」「ん」「ん」「し」「り」「い」「は」「あ」「さ」「の」「は」「の」「い  
か」「あ」「ん」「と」「あ」「さ」「を」「い」「る」「か」「な」「こ」「は」「が」「く」「ん」「く  
ち」「が」「た」「も」「の」「な」「っ」「て」「い」「く」「な」「ん」「て」「に」「ん」「じ「や」み「た」い「よ」。「ま」「ま」「は」「は  
く「の」ま「ま」。おへそがみえただけ。さんねん。

## 優秀賞

### パパ

山川小学校 二年 石川 結蘭

わたしは、パパにくっつくのが好き  
あさおきてパパにくっつく  
パパのおながが気もちいい

パパがしごとからかえってきたら  
あせとてつのおいがする  
ちよつとこがて

でも、おぶろから出るといいにおい  
わたしがすきなパパのおい

ねるときもパパにくっつく  
パパもわたしにくっつく  
ちくちくのおひげがいたいけど、それも好き  
パパはとってもあったかいからわたしは、すべ  
ねむくなる

あさになり、またパパにくっつく  
パパのおいは、ほつとすめる

### 短評 「優秀賞」「パパ」

ゆあらさんとパパ。なかがよくてうらやましい。おぶろからでたパパのおいも、パパのおなかにくっついたりするときも、あたたかくてあんしんするね。おしごとでついでつのおいも、ほんとうはいいにおいなのです。パパのおひげがちくちくして、キヤーキヤー言っているゆあらさんが目に見えるようです。まぶるふたりがひとりになったように、いのちのぶるせんにかえったように、みちたりたきもち、おとなになってもゆあらさんをほめてくれるでしよう。

心づきの音

城南小学校 三年 柏瀬 悠吾

ドキン・ドキン・どきん

このPKを止めればぼくたちのかちだ。

ドキン・ドキン・どきん

ぼくはキーパーだ。

ドキン・ドキン・どきん

あい手がボールをけた。

ぼくはひっしに両手を前に出した。

バッチーン！

ボールはぼくの前にころがった。

大きなはく手とみんなの

「やったあー！」

という声が聞こえる。

心づきの音が

きんちょうの音から

うれしい音にかわった。

ドキン・ドキン・どきん

短評 「優秀賞」心づきの音

PKで相手に回かいた瞬間に緊張感あふれる気持ちにこぼれ涙を流して、それ  
に集中して書いていますね。そこに詩のきんちょう感が生まれていま  
すよ。読んでいて、その場にいるかような気持ちになります。三度もくわ  
かえされる心づきの音は、とてもこころがなごみます。心づきの音は、  
「きんちょう」は、ひらがなで書かれています。三度もくわ  
かえされる心づきの音は、とてもこころがなごみます。心づきの音は、  
きんちょうの音から、うれしい音にかわった。

## 優秀賞

### イルカとクジラとぼく

江川南小学校 三年 川面 一颯

かしまの海には魚がいっぱい、  
大好きなつりに海に行く。

夏の日ざしに青い海、魚たちもたのしくて、  
とび魚もピョンとジャンプする、

それにつられて、沖にはイルカが大きくはね  
ているのが見えた

イルカの大ジャンプが終わると、またとび魚  
がたのしそうにジャンプする。

船長が大声でさげば。

「クジラがいるぞ。」

そのとき、目の前でクジラが大きくへしおをふく。  
クジラのしおでにじができる。

魚たちも夏がうれしくてしかたがないのかも  
しれない。

また来年もこれるといいな。

### 短評 優秀賞「イルカとクジラとぼく」

ひろひろとした青い海が目の前にひろがって、とび魚がつぎつぎにジャンプし、イルカがはね、それからまた大きくジャンプする。いきいきとした魚の動き。いのちのたくましさを感じさせますよ。それからおまたせしましたとばかり、大きなクジラがあらわれて、高くしおをふくなんて、まるで魚たちのいのちのちの大げき場。心がわくわくする詩ですね。

## 優秀賞

### あったかい手が教えてくれたこと

結城西小学校 三年 小篠 圭吾

「圭吾は、めんこいな。「ぼくのじいちゃんは東北べんでぼくのことをかわいいと言って頭をなでてくれた。でも、今は言ってくれない。じいちゃんは、にん知しょうだ。にん知しょうは、のうのびょう気で色々なことをわすれてしまう。ぼくの頭とじいちゃんの頭をくっつけたら色々思い出してくれるかな。ぼくの記おくがじいちゃんのうにとどけばいいな。」の前、じいちゃんに会いに行った。じいちゃんは、やっぱり何も言わなかった。ぼくのことをわすれてしまったのかと思った。ぼくは、悲しくなって下をむいてしまった。次のしゅん間、ぼくの頭の上にあったかいものがぶれた。じいちゃんの手だった。じいちゃんにはわらっていた。「めんこいな。」と言えないうけとぼくのことをわすれてはいないとぼくは思った。じいちゃんのあったかい手がそう言っているよじな気がしてうれしかった。

### 短評 優秀賞「あったかい手が教えてくれたこと」

「めんこいな」というおじいさんの東北べんのなんとあたたかいこと。そのおじいさんがにん知しょうになって、圭吾さんのこともわすれてしまったのかなと悲しく思っていたら、ふいにあたたかいおじいさんの手が圭吾さんの頭にぶれたのですね。そのときのうれしさがとてもよく書かれています。むねがあひくならました。さあ、愛情、思いやりは、ことばをこえて、心から心へ、体から体へちよくせつ伝わっていきななて、すばらしいことですね。

## 優秀賞

### ぼくの庭のお客さん

城西小学校 四年 工藤 慎一朗

ぼくの庭の水たまりにハトが来た  
チヨコチヨコ歩いて水を飲みながら大きな  
水たまりを見つけた  
もう一羽とんできて一緒に遊んでいる  
海だと思ったのかな  
初めての海水浴だ！

ぼくの庭のしばらに白と黒の足が速い鳥が  
来た

調べてみたらハクセキレイだった  
サササッと走って畑の方に行ったと思った  
ら急に飛んでいってしまった  
こわいむしでもいたのかな

ぼくの庭のうえきばちを持ち上げたらかえ  
るがでできた  
ぜんぜん動かなくて心配したけど少したっ  
たらのそのそ歩きだした  
まるで、朝二階から起きてくるおねえちゃ  
んみたいだ  
ごめんね、ねていたところを起こしちゃっ  
たんだね  
ゆっくのゆっくの草むらの方へ歩いていった  
また風ねをするのかな

ぼくの庭にはいろんなお客さんが来る  
こんどはだれが来るのかな

### 短評 優秀賞「ぼくの庭のお客さん」

とてもたのしい詩です。庭のようすや、そこに遊びに来る小鳥たち  
やかえるの歩き方やすがたなごをちゅういぶかくかんさつして書い  
ていて、すばらしいです。とくに、かえるが風ねを起こされて、その  
せあらわれてくるのを、二階からお姉さんが起きてくるすがたにた  
とえるなんてユーモアたっぷり。失礼しちゃうねとお姉さんにしから  
れないかな。でも、二人はとても仲良しなのですね。慎一朗さんは、  
小さな生き物が大好き。すてきなお客さんがたくさんおとすれるゆた  
かな自然をいつまでものこしていきたいね。



## 優秀賞

### 思い出のトラクター

結城小学校 五年 福島 花瑛

ある日、ビデオを観た。映るのは幼い私とおじいちゃん。

泣く私にやさしく手を伸ばすおじいちゃん。納屋を開け、トラクターに乗り、ひざの上に乗せるおじいちゃん。

エンジンをかけ、ハンドルを回し、クラクションを鳴らす。二人の満面の笑みと、聞こえる母の声。しばらくして、こんどは大泣きの私。トラクターからおりたくないらしい。

おじいちゃんは、またトラクターを動かす。笑う私、くり返し、何度も何度も、くり返しトラクターを動かすおじいちゃん。

とうとう、母におろされた私。

母は、五年ぶりに見たビデオでなみだぐんだ。私には、当時の記おくはあまりない。覚えていたのは、あのトラクターとやさしかったおじいちゃんの笑い声。

### 短評 「優秀賞」思い出のトラクター

散文の書き方ですが、文章の切り方などとてもリズム感あって、詩を読むときのように生き生きしています。ビデオに映ったやさしいおじいちゃんと幼い頃の花瑛さんのある日の姿がなつかしくあらわれてきて、その時の光景が見事に詩の中に描かれていて感動しました。おじいちゃんはすでに亡くなっているようですが、花瑛さんの心の中にいつまでも生き生きといて、やさしく笑っていますよ。すばらしいですね。

## 優秀賞

### 手話っていいな

江川北小学校 五年 生沼 友羽

学校のじゅぎょうでね  
手話について調べてみたよ  
インターネットを開いてみたら  
すぐに手話に興味をもったよ  
家に帰っておばあちゃんにも聞いてみた  
おばあちゃんも手話に興味があって  
ちょっとだけ勉強したこともあるって  
「手話は心と心をつなぐ大切なもの」  
って教えてくれたよ  
相手と顔を見合わせて  
表情をつけながら会話をするんだよって  
一つ一つの手の動きに  
ちゃんと意味があるんだよって  
おばあちゃんが教えてくれたんだ  
おばあちゃんの指先には  
たくさん思いやりが  
つまっているように見えたよ  
手話っていいなあ

### 短評 優秀賞「手話っていいな」

友羽さんは、じゅぎょうで手話を知って、自分でもインターネットで調べて、おばあちゃんにも教えてもらったのですね。友羽さんの意欲的な行動力はとても素晴らしいですね。手の動きと表情で会話ができ、心と心をつないで、おたがいに理解しあうことでどんなに世界がひろがることでしょう。そんな積極的な友羽さんは、いろいろな条件の下で一生涯けんめい生きている人たちを思いやり、手をつないで仲良く活動できますよ。

## 優秀賞

### 鳥の巣展に行つて

城西小学校 六年 清水 菜穂

お母さんと友だちと鳥の巣展に行つた。  
どんな鳥がつくつた巣なのかワクワクした  
スズメとかツバメとか？

倉づくりの建物の中に入ると  
きれいな空間の中に

鳥の絵と鳥の巣がかざつてあつた。

でもその鳥は私がしつてゐる鳥ではなく  
外国の色あざやかな鳥たちだつた。

いろんな形やいろんなサイズの巣があつた  
木でつくつた巣や葉っぱでつくつた巣。

でも一番おどろいたのは羊の毛でつくつた  
巣だ。

さわるとモコモコしてあたたかい。

ひな鳥が寒くないようにと考えたお母さん  
鳥のやさしさだ。

子そだての終つたモコモコの巣は  
人間の赤ちゃんのくつ下になるそうだ

鳥は同じ巣では子そだてをしない  
一回一回新しい巣をつくる。

鳥つてすごい  
そんな鳥の巣について知ることができた

とても良かったと思つ。

### 短評 優秀賞「鳥の巣展に行つて」

「鳥の巣展」つて楽しいですね。どの鳥も同じような巣を作るのか  
なと思つていたら、びっくりするくらい色々あるんですね。その中で  
も羊の毛で作つた巣は、とてもすてきだ。高級品だね。ふわふわモコ  
モコで暖かそう。そこで育つヒナ鳥は幸せだな。鳥が巣立つたあと、  
それで赤ちゃんのくつ下を作るなんて、なんか心がほっこりする。鳥  
ばかりでなく動物も人間もみんないっしょうけんめいに子育てする  
んだ。お母さん、お父さんつてすごい。

## 優秀賞

### ゴキブリ

結城南中学校 一年 稲葉 怜央

ゴキブリは くろくろく  
テカテカしてて すばやい  
生命力も つよくて  
それでもキィィーって 泣くんだ  
ゴキブリの すみかは  
どろどろしてて きたない  
生命力も つよいのに  
みんなでキィィーって 泣くんだ  
ゴキブリは人に きらわれている  
それでも必死に 生きている

### 短評 優秀賞「ゴキブリ」

「ゴキブリについて」、「くろく」、「テカテカ」、「すばやい」、「生命力」、「つよい」など、ひと言で簡潔に言い表して、その輪郭をはっきり浮かび上がらせていますね。余分な説明がないだけ、いっそう強くその存在が感じられます。そのような生命力を持つゴキブリが、へキィィーって泣くんだと二回も繰り返されることによって、その悲しみ、つらさが強調されます。それは、嫌われても強く生きるものの悲しみなのか。そのようなつらさみだいなものに共感して、しっかり受けとめているのがこの詩の強さなのですね。

## 優秀賞

### あの空気

結城東中学校 一年 杉山 優衣

小さいころ

朝

よく、となりのおばあちゃん家で  
テレビを見てた

朝だから

ねむ気がある中で

おかしを食べながら

ぼーっと

見てた

ふわふわしてて

となりのおばあちゃんやおじいちゃんが

うたたねしてて

温かくて

その空気が大好きだった

とても大好きだった

今は、こうではないけれど

休日、たまに

おばあちゃん家へ遊びに行く

そして

同じように、温かい空気の中

テレビを見る

昔と変わらない

今でも

この空気が大好きだ

### 短評 優秀賞「あの空気」

私たちは、理由は分からないけれど、とてもいいなあと思うことが  
ありますね。詩は、理由ではなく、そのような一瞬を言葉ですくいと取  
ることです。優衣さんの「あの空気」がそうなんです。うたたねし  
ているおじいちゃん、おばあちゃんの傍でぼーとしている。そのやな  
しさ、やすらぎ、平和、幸せな気分。生まれた頃からいつも包まれ、  
今も包み込まれている愛情に満ちた温かい感覚。それをそのまま素直  
に心を受けとめているよい詩です。

## 優秀賞

### 夏

結城中学校 二年 立野 歩武

夏は暑いし嫌になる。

汗はかくし、日焼けもする。

すずしいへやでボーっとしてるとのどがかわいた。

仕方なく重い体を動かし自転車にのる。

自動販売機にむかって自転車をこぐ。

ポケットに入れた小銭でお茶を買う。

家に帰るとき、ふらっと中学校を通ることにした。夏休みで学校に行ってなかったから。

色々な部活が活動していた。

ふと視線を向けると

そこには汗を流して飲み物をのむ彼女がいた。彼女はこっちをみて

ニコッと全力の笑顔を見せてくれた。

そして私は思った。

「たまには夏も悪くないな」と。

そして買ったお茶を静かに飲んだ。

### 短評 優秀賞「夏」

猛暑のある日の歩武さんの気持と行動を、どこか覚めた目で眺めながら正直に書いていて、そこにユーモアも生まれ、好感の持てる作品になりました。家に帰るところにしても喉は乾くので、お茶を買いに行つて、学校に寄るとみんな部活で汗を流していた。彼女もさわやかな笑顔を送ってくれた。そこで「たまには夏も悪くないな」と静かにお茶を飲む歩武さん。その妙に悟りすましたような姿が理屈を超えてなんとも愉快ですね。

## 優秀賞

### 私のことをずっと忘れないで

結城第二高等学校 一年 高橋 美羽

私をずっと忘れないで  
タンスの中に入っている服みたいに  
寝ている時に見た夢みたいに  
私をずっと忘れないでほしいの  
私をずっと考えて  
テストで百点を取った時みたいに  
はじめて日の出を見たときみたいに  
私をずっと考えてほしいの  
私をずっと大切に  
小さいころから大切にしているタオルみたいに  
左うでにつけているシルバーのうで時計みたいに  
私をずっと大切にしてほしいの

#### 短評 「優秀賞」私のことをずっと忘れないで

相手の人が実際目の前にいるように、切なく強い感情を切々と訴えていますね。舞台の上の一場面のように美しいです。〈忘れないで〉、〈考えて〉、〈大切に〉という願いのあとに、タンスの服、見た夢、百点のテスト、はじめての日の出、幼い頃のタオル、左うでにつけている腕時計などの身近な比喻が続きますが、それらはその人の人生にとって最も価値のあるものですね。それと同じくらい大切にしてくださいと詩は訴えています。その想いの強さが切なく胸に響きます。

優良児童

いぬのいじゅ

緋川小学校 一年 石島 明奈

ちぎゅうをかにじせ。  
 きわいなをうひがうみをかにじせ。  
 うみにきわいながいらあつた。  
 わかながおちきわいなにおちべ。  
 うまわが。

優良児童

しんかわかずえさん

江川北小学校 一年 生沼 笑英

ままじ、しんかわかずえさんってしつてんぶって  
 きいたら、  
 しつてんぶって。  
 どんなひと？あつたことあるってきいたら  
 ゆうきしうまれのしんさんよって。  
 いままでじ、たくさんのしをかいたよっても  
 すばらしいひとのよって。  
 たくさんのひとのこころをかんどうせだ  
 とにかくすいひとなのよって。  
 へえ。そうなんだあ。  
 あつてみたいなあ。  
 ぼくよりも、もっともつとじうえなんだってわ。  
 ぼくがうまれるずつとまえからたくさん  
 おべんきょうしてたんだね。  
 あいたいなあ。  
 ぼくのかそくもあいたいつてわ。  
 あつてみたいなあ。  
 しんかわかずえさん。しらなへつてしめんなわ。  
 でもぼく、ちゃんとおぼえたよ。  
 ぼくのあいたいひとのすとなかまいらだね。



優待賞

おとやん

江川北小学校 一年 田 田 彩

たいようみたいに、にっしんわらわら、  
 おおあらしみたいに、わめきかたに、  
 しんしんめきのひみだいに、しずかにねむる。  
 じろじろ ふわふわいに、におこ。  
 いっしょ しあわせうねうね。  
 かぞくみんなのたからも。  
 わたしもすこしまえまであかちゃんだったのに、  
 いっしょまじか わすれているよ。  
 おとうとは なにをかんがえているのかな。  
 なんでも ぐちゃぐちゃ、  
 てんきまほうをむちゅうでみて。  
 ハイハイ わらって まえに。  
 おとうこのうしろをハイハイして、  
 たり、  
 みえてきたよ ちいさなせかい。  
 めのまえが いっしょよろろのうしろは、  
 ひろがってる。

あかちゃんのきもちで おかさんのむねに  
 とびこんだら、  
 おかさんのおいでおもいだす。  
 わたしも おとうとみだいに せかいいち  
 しあわせなあかちゃんだった。

優待賞

じいじとわたし

結城西小学校 一年 大島 幸夏

じいじ、じいじ、  
 やっとぶらぶらしてね。  
 じいじはすこしみみがとおいかう。  
 じいじとわたしは、なかがいい。  
 いっしょに、ごはんをたべる。  
 いっしょに、お風呂にはいる。  
 いっしょに、じいじのしゃべり。  
 いっしょに、いっしょに。  
 はたけにいくとき、じいじはくも。  
 あっちゃんってな、かにせむるよ。  
 ゲームしてるとき、わたしはいつも。  
 あっちゃんって、ちゃっかくだね。  
 じいじ、じいじ、  
 おじいじがなほしてね。  
 すっとげんきでいてね。  
 すっとわたしとなかよくしてね。

優良児童

ふかふかおふとん

城西小学校 一年 稲葉 波華

わたしはおかあさんがほしくてくれた  
おふとんがだいすき  
ふかふかおふとんいいきもち  
うつつせにねたり  
よだねがでちゃうへん  
ふかふかでもいいきもち  
よこになってもいいきもち  
おふとんがあったかくて  
ねぞうがわるくなってしまう  
でもふかふかのおふとんが  
だいすき  
きがつくとおふとんはなの  
おふとんにねてる  
みんなのおふとんがあったかくて  
いいきもち  
まいにちあったかい  
おふとんにねたいな

優良児童

おみそこ

結城小学校 一年 若林 愛莉

ずるいよ  
まだふとんに入っていたいのに  
こないにおいでおこすなんて  
ずるいよ  
まず一口たべなって言うけど  
一口たべたら  
止まらないの しててるでしょ  
かつおぶしのおいがわり  
あったかいなあ  
やさしいあじの大こん  
ふわふわのあぶらあげ  
きらきらのなめこは わたしの大こぶつ  
よし がんばろうって思ったり  
きつと大じょうぶって思ったり  
なんだかほっとするんだよね  
ママ！おみそする おかわり！

優良児童

なつやせう

上山川小学校 二年 岩田 大河

なつはたくさんいろんないろのやさいが  
 たくさん  
 みずりやあかのぶつくらした。ピーマン  
 みずりやきいろやまっかなトマト  
 みずりのはっぱときいろのはながわく  
 きゆうじ  
 みずりよんごつとみずりよんごのおおきな  
 すいか  
 しづしづおかおのみずりやしろのローヤ  
 小さなおひげがたくさんはえたみずりの  
 えだまめ  
 きみずりのようぶくやながいおひげが  
 じまんのように  
 トゲトゲぼうしとキラキラむらむらの  
 しすをきたなす  
 みずりのはっぱをしかんでひっぱるよじ  
 ろいからだのながむね  
 みずりのはっぱをしかんでひっぱるよじ  
 をつないでたくさんでてるちやいろの  
 じゃがいも  
 みんなおうちのはただけでてるいろんな  
 いろのなつやせうたち

優良児童

夏の空

上山川小学校 二年 小貫 琉南

あつい夏の日  
 おばあちゃんのいえから見た空は  
 きれいな水色で  
 太ようがキラキラと光っていた  
 山の方を見ると  
 まっ白な大きい雲  
 にゅうじう雲だ  
 モクモクしていてやわらかそう  
 よく見ると人の形をしている  
 まるできょ人  
 山の後ろに立って  
 わたしをじっと見ている  
 しぼらくするよ  
 空がくらくなり  
 山の方はくろい雲だらけ  
 白いきょ人はきえて  
 空から雨がポツポツふってきた  
 きょ人のなみだみたい

お空のころころなかお

結城西小学校 二年 安達 葵梨

お空を見ていると くもが風についてなが  
ねしてよ。

くもが風についてころころ入んかしてころ

モロモロモロー

わたあめのようにおいしそうな

「お空のかお。」

モロモロモロー

じゅうたんのようにお空いっぱい広がる

「お空のかお。」

よほくよほ、ゆるゆるくもがひろがってころ

あつあつまに広がる

「お空のかお。」

あわっぴかぴかひかっぴろろろきいえる

雨もぶってきました。

キャー!!お空のおまじり カミナリだー。

ピカッピカッピカッピカッピカッピカッ

じわじわ。

カミナリ早くあつあつころころ

ピカッピカッピカッピカッピカッ

ねがいとどいたのか たいようが見えてき  
た。お空のおまじりはおわたったのかな。

雨もやんでまもなくして じわじわときま  
ました。

うわーじつだ。じつだ。じつまわたり。

じつにぶねてみたくな。

赤、青、むらむら、きこむすい、むね

お空ですいじくな。

ころころな「かお。」が見えてくる。

じんとはじんな「空のかお。」が見えるかな

カミナリはじわじわ

じつを見せつけてくれるから不思議だね。

優良賞

おじいちゃんの手

江川北小学校 三年 関根 大翔

大きくてぶあつい手  
けっかんがうきでて こつこつした手  
おじいちゃんが 頭をなでてくれると  
安心するまほうの手  
田んぼ道を手をつないで  
ギュッとにぎってくれたやさしい手  
もう どのくらい おじいちゃんの手に  
ふれていないだろう  
あんなに すぐそばにあった  
おじいちゃんの手に  
今はふれることが出来ない  
一度 おじいちゃんに  
頭をなでられたゆめを見た  
ふんわり やさしい気持ちで 目がさめた  
もう二度と ふれることが出来ないが  
おじいちゃんの あたたかい手を  
ぼくは わすれない

優良賞

イモリ

山川小学校 三年 塚越 輝琉

水の中で泳いだり  
りくの上で歩いたり  
水の上でぶかぶかういて  
エサをさがしてくらいつく  
イモリと友だちになりたいな  
泳ぎ方を教えてほしいな  
ぼくもいっしょになりたいな  
短い足ですいすい泳ぐ  
どこかカメにもにてる  
ぼくは、カメも大すき  
ゆめの中で体が小さいぼくは  
きつと小さなイモリ小さなカメに  
気にいられて水遊びが楽しいだろうな  
とてもあつい今年の夏  
セミの大合しょうがひびく夏  
キンキンにひえたプールにねそべって  
考えながら平わを感じました。

## お母さん

江川南小学校 四年 大里 結莉愛

お母さんが作る料理はとってもおいしい  
とくにピーマンの肉づめが大好き

肉汁が「ジュワー」とピーマンが甘い

お母さんはたまに甘えんぼう

兄弟でお母さんにマッサージをしてあげると  
顔がえがおでクシヤクシヤになる

お母さんはいつもまっすぐ育ててくれる

やさしい時おこってしかってる時

悲しく泣いてる時

わがママを言っている時

どいなかきも愛してくわゆる

私は今十才。あと十年後・・・

私はりっぱな大人になってお母さんに

おんがえしをしたい。

## 私の好きな習い事

結城西小学校 四年 榎本 粹花

私は習字を習っている。

半紙の香り、すみの香り、

やわらかい大筆にすみをつけるしゅん間

鉛筆みたく消しゴムで消せないきんちよう感

私は全部が好き。

みんな正姿をしてせ中をポンとのびして

たてに書く時は太く

横に書く時は細く

曲がる時は一度力を入れてゆっくりと

真っ白の半紙に真っ黒のすみで

大きく字を書く。

お母さんが

「のびのびしていかっこい」と

私の字を好きと言ってくれた

習字がもっと好きになれた。

大人になっても、

半紙の香りと、すみの香りに包みたい。

優良賞

時計

結城小学校 五年 青島 優花

小さな家の中 泣き声が聞こえる  
時計が悲しそうに 泣いている  
忘れられて 泣いている  
はとが飛び出してきて ポップと鳴く  
でも その声はとても切なかった

小さな家の中 笑い声が聞こえる  
時計がうれしそうに 笑っている  
うれしい知らせで 笑っている  
はとが飛び出してきて ポップと鳴く  
その声はとても明るかった

でも 時計はつかれ果てて  
ねむりに入った  
とびっきりの えがおで

時計は今も おしいれの奥で  
ねむってる

優良賞

ツバメ

絹川小学校 五年 野村 紗世

春になって  
今年もツバメが やってきた  
家の納屋には  
たくさん ツバメの巣がある  
毎年 家に来ては  
小さな口で ごろやわらを運んで  
一生けん命 巣を作る

今年は 一回、二回と 巣をこわされたけど  
何回でも あきらめずに 作り直していた  
三回目でやっと 卵が産めた  
少したって巣を見ると 四羽のひながいた  
「やった！」

思わず 声が出てしまった  
ひなは えさをたくさん食べて  
大きくなって 無事に巣立った  
今も元気に 大空を飛び回っているだろう  
また来年も幸せを運んできてくれたらいいな

最後の言葉

山川小学校 五年 浦田 愛菜

わたしのお父さんはがん  
ある日の夜  
セミの音色がなりひびく  
そんなある日  
お父さんは息を引き取った  
なにもかも信じられない  
まっくらなまよ中  
そんなお父さんからの最後の一言  
「くいのないようじいさま」  
わたしはそんな一言に息をのみこんだ  
もういくら泣いてももどらない  
そんなせつない一つの「命」

おばあちゃんのはん

結城西小学校 五年 佐藤 瑠生

おばあちゃんのはん  
おいしいごはん  
私のお母さんは夜まではたらいにいる  
だからおばあちゃんの手作り料理  
おばあちゃんの料理は元気がでる  
あたたかい気持ちにもなる  
とくにおばあちゃんのもやしなべが好き  
寒い日とかに食べると体があたたかくなる  
とてもやさしくて元気のである味だ  
おばあちゃんのはん  
おいしいごはん  
おばあちゃんの手は大きくて、あたたかい手  
おばあちゃんはおにぎりを作る時やさしく  
にぎっている  
おばあちゃんが作ったおにぎりを食べると気  
持ちはほっこりする  
なんでだろうとどうしてだろうとふしぎだ  
おばあちゃんが作ってくれたごはんはおいしい  
食べる時は手を合わせて感謝をこめていた  
きます  
食べおわったら手を合わせてありがとうの気  
持ちはこめてごちそうさまでした  
おばあちゃんのはんは私の元気のもと



## 優良賞

### 最高の修学旅行

城南小学校 六年 板橋 朋生

近年、コロナ怪物に  
ぼくたち学生の楽しみがうばわれていた  
でも今年ぼくたちは  
コロナ怪物にあっかんべーして  
修学旅行へ出発  
大きなバッグに  
ドキドキと  
ワクワクをつめこんで  
大型バスでユラユラ  
窓から見える景色が変わる  
見なれた景色と少しさよなら  
初めて見る景色におどる心  
緑色の木々  
水色の空  
バスの中の仲間の声  
みんなキラキラ  
楽しいな  
ビックリ、ビックリな  
鎌倉の大仏様

ほほえむような穏やかなお顔  
頭のブツブツ不思議だな  
見るもの全部美しい  
仲間と泊まる旅館  
ならべてひいた布団  
布団の中でクスクス笑う  
思いつき楽しい時間  
友情が深くなる  
最高の思い出  
行けたことに感謝して  
ありがとう

## 優良賞

あり

江川南小学校 六年 石崎 篤輝

キャンプ中ありをみつけた

エビのしっぽを、五ひきでがんばってすへ  
持っていくようにしている。

かつおぶしまいたら、四ひきいっちゃった、  
一ひきがせつせつがなびって、えびのしっぽ  
ちぎった。

すの場所気になって追いかけたら

あっちへきよろきよろ、こっちへきよろ  
きよろ

迷ったのかと思ったけど休けい中。

すの近くで歩く速さスピードアップ。

すへエビを入れたなら応援部隊出動だ、

エビを持っていくようにしたが、中々動  
かない。だけどエビの周りに集ってごんごん  
押していく。

おみこしみたいでおもしろい。

そのままの上持ってた。中々入らない。  
ありたちが出たり入ったり大忙し

とうとうエビがすへ入ったらありたちうれ  
しくなりました

ほくも顔がほころんで。うれしかった。

## 優良賞

カメラと写真

山川小学校 六年 若宮 袈菜

カシャ。

カメラの音、フラッシュの音はすぐ消えた。

パシャ、パシャ。

まぶしい光が目の中に何回も入ってくる。

一瞬、一瞬の時間の動きをカメラが止めてく  
れる。

パシャ、パシャ、パシャ。

まぶしいな、でも悲しいな、カメラで撮り損  
ねた風景、表情は、もうもどってこない。

一年、また一年。カメラは、季節の表情、

歳をとっていく人間の表情を写真に収めていく。

写真は思い出の一部。カメラも思い出の一部。

消える時間を止めてくれるカメラ。消える

思い出を思い出させてくれるのは写真。

似ているけど、似ていないカメラと写真。

## 優良賞

### なりたい自分になるために

上山川小学校 六年 佐藤 綾人

ぼくには小さいころからなりたい仕事がある  
それは、消防士となりレスキューたい員に  
なる事だ

理由は一つ、人を助けたい、困っている人  
を助けたい

どうせ一度の人生だから、やりたい事をする  
どうすれば近道かと考えた

まず水泳を習った

泳ぎはきつと役に立つ

必死に練習した

泳力検定一級に合格した

一つオレンジ色の服に近づいた気がした

勉強も必死にしている 体力もある

そんな必死になる努力をしているが 同時  
に危険な所に行く恐怖心もある

なりたい自分と恐怖心が行ったり来たり  
そんな事を考えて歩いていたら ぼくの横  
を消防車が通り過ぎていった

## 優良賞

### 真夜中の合奏室

結城中学校 一年 谷口 友菜

真夜中の、誰もいないシーンとした合奏室。  
夜の〇時をまわると…。

指揮棒がリズムをきざんで、

楽器たちがみんな演奏しだす。

金管楽器も、木管楽器も弦楽器に打楽器も。

お昼の部活の明るくにぎやかなのはちがう

夜の、静かで、落ちつく曲。

でも、心があたたまる。不思議な空間。

夜の一時になると、みんなもどって、

あっというまにもとのシーンとした合奏室。

一時間だけの限定コンサート。

あなたの学校の合奏室も、

真夜中のコンサートをやっているかも…？

優良賞

心のまじり

結城東中学校 一年 宮田 結生

僕は陸上をやっている  
長距離をやっている  
やっている、人によく  
「陸上って何が楽しいの？」  
と聞かれる。  
聞き慣れた質問だ  
でも、そんな質問の答えを僕は  
まだ知らない  
聞かれるたびに  
心のどろどろに、もぐりこむ。  
そんなどろどろを進んで、進んで  
ついた先は、いつも同じで  
広い空間だが何も無い場所  
でも何も無いから何でも入れられる。  
広いから入れられる。  
そこにどんどん思いや、考えを入れていく。  
たまには、うそを入れることだってある。  
なんだっって入れ放題だから。  
でも入れたあと、これはちがうと思うことも  
そんな時は、また入れなおす。  
これは、まるで走っているよう  
世界中を  
どこをどんな風に、どんなルートでも、  
自由に走っているよう。  
道をまちがえることもあるが、それでも  
走って、ゴールをさがして  
僕は走る  
走る。

優良賞

闇

結城中学校 二年 勝政 あかり

マッチの炎が  
花火の先っぽに噛み付いた  
その瞬間  
自分が花火の寿命を  
縮めたような罪悪感に襲われる  
でもその花火は力を振り絞るように  
強く光る  
やがてそれも  
闇の中に溶け込んだ  
ああ終わってしまった  
花火の寿命が  
終わってしまった  
私の周りには  
ただ静かな闇が広がった

## 優良賞

### 梅雨

結城南中学校 二年 清水 葵衣

雨の音を聞くとね  
まるで自分が世界で  
ひとりのぼっちみたいになるの  
自転車で通る畑道  
重い空気がただよふの  
桃色のあじさいが  
私はここだよと言っている  
まるで何かを伝えたいかのように  
大きく咲いているの  
梅雨の時期の暗い教室で  
私は雨が好きだと言った  
君は晴れが好きだと言った  
君と目が合うその瞬間  
私の感情は雨から晴れへと変わったの

## 優良賞

### 冬の子犬

結城東中学校 二年 菊岡 歩

冬の日の朝に、子犬が一匹  
ダンボールの中で、寒そうにしている。  
それを見て、死んでしまうと  
僕は思ったわけでもないが  
なぜだかすごく、かわいそうに思い  
家からもってきた布を  
僕は子犬にかぶせた。  
冬の日の朝に、子犬が一匹  
ダンボールの中でおなかを空かしていた。  
それを見て、死んでしまうと  
僕は思ったわけでもないが  
なぜだかすごく、かわいそうに思い  
家からもってきたりんごを  
僕は、子犬に食べさせた。  
家で保ごしようとも思わず  
動物にもあまり興味がないのに  
冬の子犬は、どうしてあんなに  
かわいそうに思えたのか？

## 優良賞

### 秋

結城南中学校 三年 阿久井 陽翔

ある秋の日

私は自室でゆっくりしていた

ふと外が気になり窓をみる

かれた葉が風にふかれている

かれた葉は枝にしがみつく

耐えきれずに風にさらわれ飛んでいく

飛んでいるかれ葉はまるで蝶

葉は地に落ちる

子供のように走りまわる

少し遠くで声がする

子供が落ち葉を追いかける

君はいつも笑ってる

結城東中学校 三年 宮田 菜々美

君はいつも笑ってる

こがね色の髪を風になびかせて。

君はいつも笑ってる

雨の日も、風の日も

移り変わる空を見上げながら。

君は毎日笑うけど

どうして笑顔でいられるの？

君は僕よりずっと小さいのに

君は僕よりずっとずっとたくましい。

懸命に、懸命に生きている

いつしか君に惹かれた僕は

毎日君に笑いかけた。

君の甘い香りに誘われてやってくる

ミツバチと一緒に。

君は僕に元気と勇気をくれた

僕は君が大好きになった

でも、この世に永遠なんてないから

いつかはみんな、消えてしまうから

君も、どこかへ行ってしまふの？

君が生きた証が残らなくても

君と僕との繋がりがりなんてなくても

僕は君を忘れない

いつか君が色褪せて、その輝きを失っても

君の分まで、僕は笑うよ

君はいつも笑ってた

こがね色の髪を風になびかせて。

優良賞

ぶじっく

結城第二高等学校 一年 関口 月雲

どうしてあなたがきめるのか  
私の心をしぼるのか  
ズボンをはいてもいいじゃない  
短い髪でもいいじゃない  
だれがきめたの  
どうして自由じゃダメなのか  
どうしてあなたがきめるのか  
愛のかたちをしぼるのか  
だれを好きでもいいじゃない  
手をつないでもいいじゃない  
だれがきめたの  
どうして愛しちゃダメなのか  
どうしてあなたがきめるのか  
私をみとめてくれないのか  
優秀じゃなくてもいいじゃない  
皆とちがくていいじゃない  
だれがきめたの  
あなたが私をきめないで

優良賞

蛙

結城第二高等学校 二年 大畑 百々虹

昨日から降り続いていた雨  
朝が来る頃には、ぴたりと止んだ雨  
寝ぼけ眼の私は、ゆっくりと庭に出た。  
雨粒の受け皿になった土の匂いや、  
じめじめとした空気に包まれた。  
しばらくして、小さな蛙を見つけた。  
だんだん、顔を近づけながら寄ってみた。  
すると、顎の辺りがぶくぶくと動いて  
眠そうな目をしているようだった。  
「私と同じだね」  
心の中でそう語りかけてみた。  
小さな蛙から見える私はとっても大きい  
それなのに、動じないなんて。  
私の足が痺れてきたところで  
蛙も体勢を変えなくなったようだ。  
そうして私も家に帰って  
淡々と生活を続けていく。



## —新川和江氏について—

- 昭和 4 年（1929） 茨城県結城郡絹川村（現結城市）小森に生まれる。
- 昭和 19 年（1944） 詩人の西条八十氏に師事。
- 昭和 28 年（1953） 第一詩集『睡り椅子』を出版。代表的な詩集に『ローマの秋・その他』、『ひきわり麦抄』、『星のおしごと』等多数。
- 昭和 35 年（1960） 『季節の花詩集』で小学館文学賞受賞。
- 昭和 40 年（1965） 『ローマの秋・その他』で室生犀星詩人賞受賞。
- 昭和 56 年（1981） 日本現代詩人会理事長就任（～1982）。
- 昭和 58 年（1983） 女流詩人による季刊詩誌、「現代詩ラ・メール」を創刊。  
日本現代詩人会会長就任（～1984）。
- 昭和 59 年（1984） 結城市民栄誉賞受賞。「結城市民の歌」作詞。
- 昭和 62 年（1987） 『ひきわり麦抄』で現代詩人賞受賞。
- 平成 4 年（1992） 『星のおしごと』で日本童謡賞受賞。
- 平成 6 年（1994） 『潮の庭から』で丸山豊記念現代詩賞受賞。
- 平成 10 年（1998） 児童文化功労賞受賞。『けさの陽に』で詩歌文学館賞受賞。
- 平成 11 年（1999） 『はたはたと頁がめくれ…』をはじめとする全業績に藤村記念  
歷程賞受賞。
- 平成 12 年（2000） 勲四等瑞宝章叙勲。『いつもどこかで』で産経児童出版文化賞  
JR賞受賞。
- 平成 13 年（2001） 結城市名誉市民となる。
- 平成 16 年（2004） ゆうき図書館名誉館長就任。
- 平成 19 年（2007） 『記憶する水』で現代詩花椿賞受賞。
- 平成 20 年（2008） 『記憶する水』で丸山薫賞受賞。  
結城市民情報センター及びゆうき図書館開館 5 周年記念事業  
として「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」を創設。
- 平成 22 年（2010） 日本現代詩人会名誉会員。
- 平成 24 年（2012） 石像「野の花」を寄贈。結城紬大使就任。

## —新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～について—

**【目的】** 結城市出身の詩人新川和江氏による「詩」の創作活動の指導を通じて、結城市の文芸振興を図るとともに、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の育成に寄与する。

**【募集作品】** 自由題の未発表詩

**【応募資格】** 結城市在住、在学の小・中・高校生

**【選考】** 選考委員長 新川和江（第1回～第10回）  
武子和幸（第11回～）  
（一社）日本詩人クラブ元会長  
茨城県芸術祭文学部門実行委員長  
選考委員 関 和代・山中 和江（センダンの木の集い）

### 【経過】

- 平成 16 年度（2004） 新川和江選「未来をひらく詩のコンクール」開催  
（結城市制 50 周年記念及びゆうき図書館開館記念事業）  
●募集作品：「<sup>わたくし</sup>私 が大人になったら」・「<sup>わたくし</sup>私 のふるさと」のいずれかを題材とする  
●応募資格：結城市及び隣接市町村在住の小・中・高校生  
●最優秀賞：「わたしのふるさと」  
児矢野 千穂（三和町立大和田小学校 2 年）
- 平成 20 年度（2008） 第 1 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
（結城市民情報センター・ゆうき図書館開館 5 周年記念事業）  
●新川和江賞：「あまいみをならしてね」 海老澤 匡希（山川小学校 2 年）
- 平成 21 年度（2009） 第 2 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「夏」 向田 浩哉（結城小学校 5 年）
- 平成 22 年度（2010） 第 3 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「ランドセル」 野呂瀬 早紀（結城小学校 1 年）
- 平成 23 年度（2011） 第 4 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「石」 藤野 里菜（結城東中学校 2 年）

- 平成 24 年度 (2012) 第 5 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「日記詩」<sup>にっきうた</sup> 海老澤 朋代 (結城南中学校 1 年)
- 平成 24 年度 (2012) 「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」5 周年記念誌発行
- 平成 25 年度 (2013) 第 6 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「変わらない日々」 宮田 和佳奈 (結城東中学校 2 年)
- 平成 26 年度 (2014) 第 7 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「やさい」 永田 美穂 (山川小学校 2 年)
- 平成 27 年度 (2015) 第 8 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「風のふで」 山田 明依 (城南小学校 3 年)
- 平成 28 年度 (2016) 第 9 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「河原の石」 浅利 直弥 (結城小学校 6 年)
- 平成 29 年度 (2017) 第 10 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「伝統の田植え」 須藤 啓太 (城西小学校 5 年)
- 平成 29 年度 (2017) 「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」10 周年記念誌発行
- 平成 30 年度 (2018) 第 11 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「あっ来た。ヤモリ」 永井 心海 (山川小学校 2 年)
- 令和 元 年度 (2019) 第 12 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「おばあちゃん家」 湯本 有紗 (結城南中学校 2 年)
- 令和 2 年度 (2020) 第 13 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「いいかおり」 坂本 七海 (結城第二高等学校 1 年)
- 令和 3 年度 (2021) 第 14 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「おばあちゃんの庭」 登坂 悠生 (結城西小学校 6 年)
- 令和 4 年度 (2022) 第 15 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「ぼくとウクライナの一日」 坂入 巧真 (絹川小学校 4 年)

## —結城市民の歌—

新川 和江 作詞

1. おはよう結城 わたしたちの<sup>まち</sup>市  
むらさきの筑波のみねから  
太陽ののぼる<sup>まち</sup>市です  
鬼怒川の流れのほとり  
千年の昔も今も  
娘らがはた織る音の  
高らかにひびく市です  
名にし負うつむぎのふるさと結城
2. こんにちは結城 わたしたちの<sup>まち</sup>市  
旅びとも歴史をたずねて  
おとずれる城下町です  
いにしへの文化の上に  
あたらしい未来をひらく  
ひとびとが心寄せ合い  
すこやかに暮す市です  
かぎりなく伸びゆくふるさと結城
3. こんにちは結城 わたしたちの<sup>まち</sup>市  
はつ夏はあの道この道  
桐の花におう市です  
桑の実にくちびる染めて  
幼い日あそんだ友が  
祭りには胸はずませて  
遠くから帰る市です  
なつかしい灯ともすふるさと結城

# 花の名

新川和江

もも

ゆきやなぎ

みつばつつじー

花の名をいうときには

この春やっと

ひらがなを覚え<sup>おぼ</sup>た<sup>え</sup>ち<sup>い</sup>さ<sup>な</sup>妹<sup>あな</sup>が

や<sup>わ</sup>ら<sup>か</sup>な<sup>えん</sup>鉛<sup>びつ</sup>筆<sup>で</sup>

一<sup>い</sup>字<sup>じ</sup>書<sup>か</sup>いて<sup>は</sup>

う<sup>れ</sup>し<sup>げ</sup>に<sup>に</sup>こ<sup>っ</sup>り<sup>す</sup>る<sup>よ</sup>う<sup>に</sup>

わ<sup>た</sup>し<sup>は</sup>発<sup>はつ</sup>音<sup>おん</sup>す<sup>る</sup>の<sup>で</sup>す

や<sup>は</sup>り<sup>ひ</sup>ら<sup>が</sup>な<sup>で</sup>

え<sup>に</sup>し<sup>だ</sup>

こ<sup>ぶ</sup>し<sup>は</sup>な<sup>み</sup>ず<sup>き</sup>

そ<sup>し</sup>て<sup>は</sup>わ<sup>く</sup>ら<sup>い</sup>...

